



6回目となった「なくそう！官製ワーキングプア・反貧困集会」、午前中に団体交渉をめぐる大阪と東京の事例を取り上げた。団体交渉に「すら」応じない「ブラック自治体」が日本最大級の自治体の実態だ。公共団体がこういう悪どい労働政策をとっているのだから、日本社会に労働組合や労働者の権利そのものを認めようとしないう風土が続いている。バク・ウォンスンソウル市政と真逆の石原～猪瀬～舛添都政、この違いって何なのだ。

本紙発行の直後には、大阪で第2回集会在開催される。本号では、札幌と沖縄での集会レポートを掲載したが、各地で運動を拡げ、格差社会は許さないという世論を創り出していきたい。 (白石 孝)

## 目次

## 特集 なくそう！官製ワーキングプア第6回集会

1 集会のあらまし	白石 孝	2
2 参加者の感想	久米由希子、澤田亜矢子、安田信子、山室徳子、山本志都	4
「人を大切にする社会に向けて～非正規労働の問題を考えるシンポジウム～沖縄集会	仲村宮子	7
つながって考えた、つながって声をあげた「9.13雇用を語ろう！大集会」に250人	川村雅則	8
韓国社会運動調査、反貧困全国集会2014レポート	白石 孝	9
総務省新通知で東京都が大きく動く	白石 孝	10
お知らせ、編集後記	白石 孝	12

## 150名が参加、総務省の新通知も徹底検討

8月30日、東京文京区春日の文京区民センターにおいて「なくそう！官製ワーキングプア・第6回反貧困集会」を同集会実行委主催で開催、約150名が参加した。

集会開催の約2か月前の7月4日に、総務省が「臨時・非常勤・任期付職員の任用等について」という通知（以下、総務省7.4新通知）を発出したことで、急きょ集会の内容を組み換え、新通知をどう評価し、取り組んでいくのかという特別シンポを行った。

また、非正規公務員の暮らし、働きやそれへの評価、上司や正規職との溝や壁などをインタビュー形式で紹介するコーナーを設置したことも新たなチャレンジだった。

さらに、地方公務員一般職は「職員団体」、特別職は「労働組合」となっているが、一般職と特別職の両方が加入する「混合組合」と団体交渉について、自治体当局の対応、労働委員会命令、判決を取り上げ、非正規公務員の基本的な権利についての現状を交流した。

恒例となった「ワーキングプア川柳」にも、当日会場応募を含め、150句ほどが集まり、選

者の川柳作家乱鬼龍さんから「積み重ねの成果が出て、レベルの高い句が増えている」とお褒めのお言葉もいただいた。

2009年から始まった「なくそう！官製ワーキングプア集会」は、開催当初から「社会問題としての官製ワーキングプア」という視点に立ち、その解決は政治的社会的な運動を積み上げることから展望できると確認してスタートした。だからこそ、所属するナショナルセンターや職種、雇用関係、労組形態などの違いを超えた共同運動とした。また、お互いの違いを認め、交流を中心とした集会企画とした。

こういった方向性が、多くのマスコミにもアピールし、共感を得て、社会的な発信が進み、さらには全国的な拡がりをもたらすこととなった。

昨年初めて「大阪集会」を開催し、今年は多少の組み立ての違いはあるものの、沖縄と北海道でも同様の集会が開催されたことが物語っている。11月の第2回大阪集会、そして来年の第7回集会でさらに大きな社会運動をめざしていきたい。（文責・白石孝）

### ◆2014年8月30日（土）、文京区民センター2A会議室◆

10:00～12:00 特別企画「運動の交流～代表事例の発表と質疑」 \*70人参加

映像 民間労組及び非正規公務員の団交事例を紹介

①東部労組の組合結成通告団交 ②越谷市職の全員参加で非正規賃金交渉

③公立学校共済青山フロラシオン施設閉鎖団交

報告① 消費生活相談員ユニオン（玉城）、東京公務公共一般労組（松崎）

報告② 大阪教育合同労組（山下）

意見交換～司会：連帯・杉並（安田）

12:00 昼食休憩

12:20～13:00 「続・メトロレディーブルース」特別上映（40分）

13:05 司会：荒川区図書館労組（岩淵） \*150人参加

13:07 基調的発言+ソウル市報告：集会実行委（白石）

13:25 たたかいの現場から

手当・ボーナス闘争を展望する（港区職労）、業務委託と雇用確保（板橋区学童～パート労組）、委託や指定管理の問題（委託：墨東病院、指定管理：竹ノ塚図書館）、労働契約法による訴訟（郵政産業労働者ユニオン）、臨時教員の待遇改善（埼玉・特別支援臨時教員）、ハローワーク雇止め訴訟（弁護士と原告）、11月大阪集会アピール（大阪実行委）、北海道での取り組み（北海学園大川村准教授）

- 14:40 休憩～資料や名刺交換タイム  
 14:55 「三恵子の部屋～非常勤問題の本質を聞く」(竹信三恵子+樋上欣子)  
 15:10 川柳パフォーマンス <選者・評者>乱鬼龍  
     天 ネットでは死相出ている自由主義  
     地 非正規の支える会社砂の城  
     人 働いて嘘で汚れた割烹着
- 15:20 総務省2014年新通知を「寄ってたかって読み解く」  
 (コメンテーター:上林陽治、安田真幸、白神薫、山下弘之)
- 17:00 閉会  
 17:15～19:20 同会場で交流会 34名参加

<賛同団体・個人>

全統一労組、連帯・板橋区パート、東京都学校事務職員労組、大田区職労、小畑精武、岩田哲夫、国公一般、自治労越谷市職、均等待遇アクション21、望月正元、仲村宮子、江戸川区職労、墨田区職労、立川市職労、目黒区職労、自治労日野市職、内藤進夫、仙台市職労、藤代政夫、連帯杉並、自治体労働者組合・杉並、安田真幸、安田信子、妹尾美喜夫、奥山たえこ、林憲治、全国自治体労働運動研究会、平岡博範、松村孝、荒川区図書館非常勤労組、東京清掃労組、港区職労、吉村正、荒川区職労、東京都交通協力会労組

「ワーキングプア川柳」入選作

<事前応募>

- ・コピペだけ特異な国の末路見え
- ・声を出し戦争する国打ち砕く
- ・入れてくれ法令順守に労災も
- ・非正規も祝儀の分母に入れられる
- ・任せても安心なのは非常勤
- ・売り上げの大半非正規支えてる
- ・非正規で夢と結婚諦める
- ・課長よりバイトに訊けと主任言い
- ・消費税分が足りずに飯を抜く

<会場応募>

- ・退職金ないのに停年あるんだな
- ・保育所なくあるのはマタハラ解雇のみ
- ・貧すれど鈍するものかとコブシあげ

<2009年～2013年入選作を一挙掲載 選者:乱鬼龍>

- 2009年 天:気がつけば常勤教える非常勤 地:物件費私はものといっしょなの  
 人:経験を積んだ頃には雇い止め
- 2010年 秀:非常勤賃下げだけは正規並
- 2011年 主な入選句:下請けのオイラの命想定外/初めての団交前に深呼吸  
 組合があるから今日も顔を上げ
- 2012年 天:一日を精一杯に生きて朝 地:餌の無い働きアリになる不安  
 人:働けど五年有期の悲しさよ
- 2013年 天:非正規と正規を分ける深い河 地:非正規を増やしスリム化自慢する  
 人:終電に干物みたいな労働者

<レイバーネット川柳班の正木斗周さんが選んだ大阪川柳2013>

- 天:安全な国に生きてる不安感 地:安売りに作った人の涙見る  
 人:上っ張り着る気はないがなぜくれぬ
- 佳作:年賀状買えず欠礼いたします/億ションのチラシあばら屋にも届く  
 貧しさが繋ぎ止めてる夫婦仲/やる気あり資格もあるが職が無い  
 発泡酒飲まぬ政治家税を決め/貧乏に慣れてきたかと神に問う/粗食でも妻の料理に偽装無い

## 集会参加者に感想文を書きいただきました

### あきらめずに頑張る続けることの大切さを、再確認

6回目となった集会に初めて参加しました。とても内容が深く濃い集会でした。

午前中は、消費生活相談員ユニオンと、大阪教育合同労組の報告でした。どちらも、自分たちが置かれた立場を理解し、その中で何ができるのか、しっかりと勉強すること、その結果、大きな成果になった報告でした。非正規を取り巻く裁判の結果に、納得出来ない判決があるなかで、時には、こんないい結果が出るんだなと思いました。諦めずに、頑張る続けることの大切さを改めて教えてもらえました。

午後は、たたかひの現場からの報告から始まりました。次から次に、よくこれだけ厳しい現状があるものだと、いつも思います。誰もが安心して働きたいと願いながら「非正規」と言うだけで、賃金は低く年休が無かったり、ボーナスが無かったり、退職金が無かったり、おまけに簡単に首を切られ、辛い思いをしている人がたくさんいます。その人達が、立ち上がって声を上げ労働条件を改善する、それを知って新たな人が立ち上がる、その結果が6回目にしても、現場からの報告が絶えない今の社会なんだと感じました。

次の「三恵子の部屋」は、とてもおもしろい企画でした。非正規という立場で働く辛さや正規に対する思いなど、短い時間でしたが、たくさんのお話を聞かせてくれました。私には共感出来る思いでしたが、正規の人には、この思いがどれくらい伝わったのかと、少し考えました。

そして、7月4日の総務省通知についてでした。4人の方の個性光るコメントでした。読む人の立場や考え方によって、色々な解釈の出来るものなのかなとも思いました。それぞれが抱える問題、課題は単組によって違います。この通知を最大限に生かす方法を、問題、課題に合わせて勉強する必要があることが、よく分かりました。

どんな問題でも、ここに集まった皆さんとなら、意見を聞き、アドバイスを頂きながら、いつか、解決の道が開けるんだと、それまで諦めずに頑張る続けることの大切さを、再確認できました。誰もが安心して働き続けられる社会になるまで、この集会が一つの光であって、いつの日か「反貧困集会」そんなこともあったなと、笑って話ができる日を来ると信じたいです。

(宝塚臨職労 久米由希子)

### 立場や運動形態による解釈の違いは、

#### この集会ならではの感じた

以前から言われてきたことですし、参加するたびに感じてきたことですが、この集会の大きな意義は、当事者

の生の声を聞くことができ、ナショナルセンターや業種の垣根を越えた交流・意見交換ができ、そのことで励まし励まされるということにあると思います。今回の集会には、午後からしか参加できなかったのですが、私が参加した時間帯に限れば、総務省通知に大きな比重が置かれていたこともあり、やや難しかったように思います。また、現場からの報告や意見交換に割ける時間が少なく、総務省通知と直接関係のない人には、おもしろみに欠けるものになってしまったのではないかと思います。

竹信さんと非常勤職員の方の対談「三恵子の部屋」は、企画自体はおもしろかったのですが、内容が常勤職員批判に偏りがちだったことは少し残念に思いました。「働かない常勤職員とボーナスも出ないのにすごく頑張っている私」という対比はわかりやすい構図ではあるし、実際に共感する部分もあります。しかし、そこばかりを切り取っても、切実な実態の解決や次のステップに繋がらないように感じます。話し自体がおもしろく、印象的な言葉も多かっただけに、働き方や制度上の問題点なども盛り込み、可能なら解決策を探るような展開であればもっとよかったです。

私の今回の最大の目的は7月4日に出された総務省の新通知でしたので、「総務省通知を読み解く」という企画は大変興味深く聞くことができ、同じ通知からこれほど違った解釈ができるものかと感心させられました。特に、特別職から一般職、あるいは任期付への任用切り替えについては意見が分かれ、労働三権を持つ特別職であることをどれだけ活用できるか、自分たちの組合活動を考えさせられる機会にもなりました。自分たちだけでは、あのわかりづらい総務省の通知文を読み込むことはできなかったでしょうし、理解することも難しかったと思いますが、立場や運動形態による解釈の違いを感じることもできたのも、この集会ならではの感じました。また、総務省のこの問題に対する認識もだいぶ明らかとなり、活用できる前進があることもわかりました。それをどのように使って交渉していくのかはもちろんこと、一般職の方が有利なことはないのかなど、まだまだ勉強が必要だと感じました。

自分たちだけで組合活動をしていると、なかなか前進できない閉塞感で投げ出されることがあるのも正直なところですが、しかしこの集会に参加して、同じように恵まれているとは言えない環境の中で働きながら、あきらめずにたたかう仲間が全国にたくさんいるということを再認識でき、またこれから頑張る力をもらいました。

(荒川区図書館非常勤職員労働組合 澤田亜矢子)

### 是正されない格差がある限り、この集会を続ける

この反貧困集会は今年でなんと6回目。開催に尽力くださった実行委員会や他のメンバーの皆様の熱意・持続力に敬服と大感謝のみです。恒例の川柳さえも出さず、ただ顔を出すだけの身で、集会内容や参加人数を心配するのもおこがましいですが、趣向をこらし充実した中身と150名を超える参加人数にほっとしました。

午前中の運動の交流は三様の団交の映像と報告の構成。映像は臨場感がいいですね。①東部労組の組合結成通告団交シーンでは、机を挟んでの団交とは違い（団交の固定概念が覆された）、社長と社員の膝がくっつくほどの近さで、文字通りのひざ詰め談判風。この距離も人権無視の横暴な社長からの謝罪を引き出すのに効を奏したのでは？ ②越谷市職の全員参加の団交は当局を圧倒し、労働者の要求の重みが間違いなく伝わります。この迫力はいつもながら羨ましい。③青山フロアシオンの団交は突然の施設閉鎖通告で死活問題に直面する職員の追求。厳しい闘いになりそうですが雇用継続を勝ち取るよう応援したいです。

報告は消費生活相談員ユニオン（東京公務公共一般）、大阪教育合同労組からのものでした。大阪教育合同労組の山下さんの報告で、合同労組と混合組合の性格を理解。日々の行動に時間を取られ、学ばないままでしたのでいい機会でした。

昼食休憩時の特別上映の「続・メトロレディーブルース」では、東京メトロの売店で働くメトロコマース組合の女性たちのたくましさを増した闘いぶりと暮らしぶりが披露されていました。第三弾も期待していいのでしょうか？

午後も盛りだくさん。闘いの現場からの報告は恒例のもので、毎回新しい当事者が登場します。新趣向のコーナーとは「三恵子の部屋」でした。現役非常勤職員に職場実態を聞きだす竹信さんの立て板に水のおしゃべりの早さよ、と妙なところに感心してしまっただけです。

難しいところでは、総務省が出した7.4新通知の読み解き。私たちの運動に大いに関係するだけに、4人の臨時・非常勤問題の達人がこの通知の背景や意図などの見解を述べてくれました。達人たちの見解を理解できたかは別にして面白かったことは確かです。読み込んで、手始めに「ところで、例の総務省通知ですが…」なんて団交の席で切り出せるようになりたいものです。

杉並区でも正規職員は4,000名を割り込み、非正規職員はこの10年で約800名増え1,955名となっています。他の自治体でも同様でしょう。正規と同じ仕事をしているのに是正されない格差がある限り、この集会を続けるほかはありませんね。（連帯労働者組合・杉並 安田信子）

### 全国の非正規公務員の存在を身近に感じられる貴重な機会

この集会には第1回から参加させていただいています。同じ自治体の非常勤職員同士でも他職場となると会う機会すらほとんどないのに、全国の非正規公務員の皆さんの存在を身近に感じられる、とてもありがたく貴重な機会です。ご尽力くださっている皆様に心から感謝しています。

ここではたくさんの知識や情報を得ることで、とても参考になります。「任用」という言葉の意味を初めてしっかり学んだのもこの集会でした。法的解釈や裁判の系譜についての説明を受けて「労働契約でなくて行政処分」「期待権」「義務付け訴訟」など難しい知識を脳味噌にムチ打って学んでは、非正規公務員の地位の法的裏づけのなさがっかりする一方で、勇気を出して報告に来られた方々、労働委員会や裁判でたたかっている方々、労働組合として交渉によって地位向上を獲得している方々などを目の当たりにして、そう皆頑張ってるんだ、負けてはいられないと、いつも励まされてきました。

今回も数多くの報告がありました。東京都の酷さに怒り（総務局との団交の件は全く同じことを私たちが常々感じています）、メトロレディーの皆さんの映像に笑い感動し、安易な委託の実態を憤り、故なき雇止めを提訴した決断に拍手し、川柳に共感し…。特に社会福祉士の樋上欣子さんが竹信三恵子さんとの対談で言われた「情熱や能力と待遇とのギャップが自己評価を下げる」「強いられる自己選択に気づきにくい世の中」「連帯が大事」との言葉が心に残りました。

さて、気になったのはやはり7月4日に出された総務省の通知を読み解くという企画です。とにかくこの通知、官僚的文章というか非常にわかりづらい！でもこの集会和資料のおかげで、一言一句に意図があることがよくわかりました。

任用更新回数に制限を設ける動きが牽制されたことは（本質的な解決ではもちろんないけれど）ほっとしましたが、問題は任用替えのこと。特別職から一般職への切り替えにそんな意図があるとは！私は特別職の非常勤嘱託職員として14年半、今の図書館で働いていますが、今回の議論を聞いて、自分たちが「労働組合法に基づく労働組合」であることの意義を改めて認識しました。また、「任期付職員制度」について学び、その危険性について知ることができたのも大きな収穫でした。

最初に浮かんだのは、市は任用替えを言ってくるだろうか？という不安でした。そもそも私たちの仕事は特別職と一般職どちらなんだろう？「定型的」「補助的」「労働者性の強い」ってどう解釈すればいいの？もし任期付職員を持ち出されたら？…

しかしその後、基本的な事柄を教わる中で、私たちの存在が想定されていない法律の中に正解があるはずがない、当局が無理やり作った言葉の枠にとらわれず、私たちが長年働いてきた事実、労使交渉で積み重ねてきた権利がまずあって、それを認めさせること、そういう力関係を築くことが大切だと考えるようになりました。

そのほかに、勤務条件についての国との権衡や福利厚生についての言及など、まだまだ気になる点があります。私たちの組合も具体的にはこれから勉強し、議論し、戦略をたてていくのですが、その際に非正規公務員はどうあるべきなのか、今どういう道筋の上に立っているのか、俯瞰する視点が必要だと感じた集会でした。

(全統一労働組合千葉市非常勤嘱託職員分会 山室徳子)

### 積み重ねを実感する集会

集会も回を重ね6回目。これまでもそうだが、10時から17時までしっかりしたプログラム、その後の交流会という、1日がかりの集まりであった。

この集会からNPO「研究会」も生まれ、非正規公務員、公務の民営化の実態が可視化され、社会に大きなインパクトを与えてきたことは、みなさんもご存じのとおりである。今回の集会も、東京のみならず、北海道から大阪から、多くの方が集まってくださった。

午前、消費生活相談ユニオンと大阪教育合同労組という、この間、「労使交渉」という舞台設定そのものをめぐって、先端を切り開く運動を展開している組合の当事者が、労働委員会から訴訟に進んだ闘いを振り返るといふ企画だった。団体交渉が実効化する担保は、(労働委自身が変質したといわれる中であっても、やはり)不当労働行為救済制度にある。混合組合をめぐる議論、団交の議題設定をめぐるやりとりは難しい部分もあったが、2つを関連づけてみることで、新たに気づいたことも多かった。

昼休みは、「続・メトロレディーブルース」特別上映。大評判の前作を見逃していた私。組合員1人1人のキャラ立ちぶりにぐいぐい引き込まれた。当事者として立ち上がる、ということの強さ、やむにやまれなさと同時に、大変さも、よく伝わってきた。組合員の方とは面識がなかったが、集会後、霞ヶ関ですれ違って、誰だか思い出せないまま、丁寧に挨拶をしてしまうことになるくらい、印象的だった。

午後は、研究会理事長白石孝さんのソウル市報告から始まった。非正規の正規職への転換政策が社会全体に与える影響を考えると、労働運動が社会を変える力を持つことが実践的にみえる気がした。

次はリレートーク、闘いの現場からの報告が続いた。

国、都、市、区の各レベルで、非正規が公務を支える存在になっているのに、非正規と正規との間のもはや「身分」差別といってもいいくらいの労働条件の格差については、手がつけられないまま放置されていること、しかし、一方で、当事者による取組みが広がったことで、休暇制度が改善されたり、経験級が導入されたりする成果も出ていること。当事者からの発言はそれぞれ個性的で、1人1人が現場で職場を支えている様子が想像できた。新たに雇止め訴訟を提起した報告もあった。

短い休憩をはさんで「三恵子の部屋」。研究会理事でもある竹信三恵子さんが「樋上欣子(ヒジョウキンコ)」さんに、専門知識を有する非正規公務員として働いてきた自身の体験から、非正規という労働の本質について聞くという企画だったが、これが秀逸だった。「非」正規として、差別の下で働くことがいかに人間を損なうことなのか。語る側にも聴く側にも力があり、労働が人間にとって本質的なものであることが、ジェンダー論をふまえて、抽象化されずに語られた。20分という枠では入りきらない、さまざまなものの影が示された対談だった(ぜひ今度、長い尺で話を伺いたい)。

川柳パフォーマンスは、すでにこの集会の名物となっている。選者・評者の乱鬼龍さんが快刀乱麻を断つごとく、ポイントを話してくださる。五七五の中では組み合わせは有限だから…と、すでにある句の近くをうろつくしかない私は、受賞作にただうなずくのみ。

おしまいが、「総務省2014年新通知を寄ってたかって読み解く」という、研究会ならではの目玉企画。コメンテーターは、上林陽治さん、安田真幸さん、白神薫さん、山下弘之さん。2012年総務省調査をふまえて今年の7月4日に発せられた新通知が、活用できる面・悪用される可能性のある面という双方から、侃々諤々俎上に載せられた。活発にとびかかった質問も含め、間違いなく、日本でもっとも実践的にもっとも当事者の立場に立った議論がかわされていると感じられた。この日にあわせて発行されたブックレット(700円)は、この議論の前提であり、生々しい分析となっている。

会場には私が気づいた限りで4名の弁護士が来ていた。この集会がまさに非正規公務員をめぐる議論の最先頭を切り開いていて、ここに来ればなにか知恵をもらえる、誰かに質問すれば突破口が得られる、そんな予感があるからこそのことだと思う。集会が生み出した数え切れないほどのつながりをさらに積み重ねていきたい、そう感じる集まりだった。

(弁護士 山本志都)